

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
<p>1 入港船舶の安全確保 対策を</p>	<p>サンマ漁も当初の予定より1カ月遅れとはいえ、11月28日時点で昨年度を上回り、入港船舶数も約1.6倍の73隻から116隻、サバ、イワシ巻網も4隻から30隻へと確実に水揚数量を増やしている中、事業関係者からは、別の声が聞こえてきました。</p> <p>入港船舶が増加するとともに、各種漁船の大型化と省力化が目立ってきましたが、水揚作業終了後に離岸する際、アンカー等に震災時の残存品が引っ掛かり、30分から1時間の除去作業等が生じているとのことであり、被害状況について伺います。</p> <p>(1) 10年間における実質的被害状況は。</p> <p>(2) 角浜地区において、巻網船の接岸や砕氷積込みの際、干潮時に海底への接触が心配とのことですが、水深が浅くなっている原因と対策は。</p> <p>また、水深調査や水深実測図の作成予定は。</p> <p>(3) 台風、低気圧等の気象、海上状況において、女川港は「泊地」に設定されており、水揚げのみならず、船舶の安全面からも重要な港です。</p> <p>あれから10年、現状を踏まえ宮城県に対応を求め、情報とともに共有行動すべきでは。</p> <p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>

質問事項	質問の要旨
<p>2 漁港安全対策と現状 改修策は</p>	<p>10月中旬から養殖ガキの水揚げ、11月初旬から養殖ギンザケの稚魚の搬入と、北浦、五部浦、万石浦地区は、多忙な時期を迎えておりました。基幹産業の現場へと足を運びましたが、震災後9年8カ月間の復旧、復興事業における護岸対策に疑問を抱きました。特に、北浦地区の竹浦、五部浦地区の野々浜漁港です。震災時のままの現状、いつかは、いつかはと思いつつも伺います。</p> <p>(1) 竹浦、大湾側の対策は今後も現状のままですか。乗船、下船等の安全性は確保できますか。</p> <p>(2) 野々浜漁港船揚場と荷揚場との見解の相違での現状維持を続けるのですか。</p> <p>今後の対応計画案は考慮していますか。</p> <p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>